

『清語易言』の漢語語彙(2)

竹越 孝

(承前)

3. 数詞

3.1 不定数

“再三”

一般に副詞として扱われるものだが本節で取り上げる。

“再三”は2例用いられ、うち1例は“的”を伴う。いずれも動詞を修飾する。

満洲語では直接動詞を修飾する場合、副詞 *cibtui* (何度も、繰り返し) に対応し、“的”を伴う場合、副詞 *dahin* を連ねて属格/道具格語尾の *-i* を付した *dahin dahin i* (何度も、繰り返し) に対応する。

- (1) 再三告訴 (7a4) 〈*cibtui*〉
- (2) 再三的告訴了 (8a3) 〈*dahin dahin i*〉

“再四”

“再四”は1例用いられる。“的”を伴い、動詞を修飾する。

満洲語では副詞 *lalanji* (くどくど、何度も) に対応する。

- (1) 原來再四的告訴了呢 (5b3) 〈*lalanji*〉

“幾”

不定数を表す“幾”は1例用いられ、名詞を修飾する。

満洲語では形容詞 *udu* (いくつの、いくつかの) に対応する。

- (1) 此幾字作雖字首下用 (16b2) 〈*udu*〉

“好些”

“好些”は1例用いられ、動詞の目的語となる。

満洲語では指示副詞の *utala* (これほど、こんなにも) に対応する。

- (1) 告訴了好些 (6b5-6) 〈*utala*〉

“些須”

“些須”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *majige* (少し, 些か) に対応する。

- (1) 乃些須畧比之意 (19b6-20a1) 〈*majige*〉

上は満洲語の副詞の紹介の中で単独で用いられている場合である。

“一点”

“一点”は1例用いられ、動詞の目的語となる。

満洲語では副詞 *elekei* (あと少しで, ほんの僅かで) に対応する。

- (1) 失一点没得告訴 (9b4-5) 〈*elekei*〉

上では“失一点”で“差一点”の意味を表していると思われる。

“好一會”

“好一會”は1例用いられ、動詞の目的語となる。

満洲語では副詞 *kejine* (長い間, 久しく) に対応する。

- (1) 告訴了好一會 (7b5) 〈*kejine*〉

3.2 疑問

“幾”

疑問としての“幾”は1例用いられ、“第幾”の形を取る。

満洲語では形容詞 *udu* に序数を表す接尾辞 *-ci* が付された *uduci* (何番目, 第何) に対応する。

- (1) 乃若第幾從由比空兒之意 (18a5) 〈*uduci*〉

上は奪格語尾 *ci* の各種用法を紹介する中で単独で用いられている場合である。

3.3 序数

“頭”

第一の意味を表す“頭”は3例用いられ、すべて“頭一個”の形を取る。

満洲語ではいずれも名詞 *uju* (頭, 最初) に対応する。

- (1) 獨拿頭一個頭兒字上講 (23b5) 〈*uju*〉

- (2) 頭一個頭兒同韻者 (29a2) 〈*uju*〉

3.4 重複形式

“一里一里”

数詞の重複形式として“一里一里”が1例用いられ、“的”を伴って動詞を修飾する。

満洲語では副詞 **cun** を連ねて属格／道具格語尾の **-i** を付した **cun cun i** (少しずつ, だんだんと) に対応する。

- (1) 一里一里的告訴 (7b2) 〈**cun cun i**〉

4. 量詞

4.1 動量詞

“遭”

動作の回数を数える“遭”が1例用いられ、“每遭”の形を取る。

満洲語では接続後置詞 **dari** (～ごとに, ～たびに) に対応する。

- (1) 每遭告訴 (6a4) 〈**alahadari**〉

4.2 重複形式

“AA”

動量詞の重複形式として“遭遭”が1例用いられる。

満洲語では名詞 **mudan** (回, 度) に接続後置詞 **dari** が後続した **mudandari** (毎度, 毎回) に対応する。

- (1) 遭遭告訴 (7b1) 〈**mudandari**〉

5. 形容詞

5.1 重複形式

“AA”

“AA”型重複形式として“細細”が2例, “悄悄”“漸漸”“累累”“慢慢”が各1例用いられる。いずれも“的”を伴って“AA的”の形を取り後ろの動詞を修飾する。

満洲語では, 属格／道具格語尾 **-i** を伴う形に対応するものが3例 (うち副詞を連ねた形は1例), 動詞の不定形 **-me** に対応するものが2例, 副詞に対応するものが1例である。

- (1) 漸漸的告訴 (7b4) 〈**ulhiyen i**〉
(2) 累累的告訴了 (8a3) 〈**dahūn dahūn i**〉
(3) 細細的告訴了 (7b6) 〈**narhūšame**〉
(4) 悄悄的告訴了 (7b6) 〈**jendu**〉

“A里AB”

“A 里 AB”型の重複形式として“胡里糊塗”が1例用いられ、述語となる。また、“糊里抹兒”という形も1例あり、“的”を伴って動詞を修飾する。

満洲語では、“胡里糊塗”に形容詞 *hūlhi lampan* (曖昧な, 愚昧な) が対応し、“糊里抹兒”に副詞 *hūluri malari* (いい加減に, ぞんざいに) が対応する。

- (1) 告訴過的胡里糊塗 (9a6-9b1) 〈*hūlhi lampan*〉
- (2) 糊里抹兒的告訴了 (8a2) 〈*hūluri malari*〉

“糊里抹兒”と *hūluri malari* には音声的な類似が認められる。

5.2 漸層表現

“愈發”

副詞のカテゴリーに属するものだが、本節で取り上げる。

“愈發”が1例用いられており、形容詞を修飾する。

満洲語では副詞 *elei* (ますます, いよいよ) が対応する。

- (1) 告訴愈發不好了 (9b5) 〈*elei*〉

6. 動詞

6.1 接辞

“打”

動作一般を表す“打”は2例用いられ、いずれも名詞的な成分の前に置かれている。

満洲語ではそれぞれ単独の動詞に対応する。

- (1) 打鞦韆 (22b1) 〈*cekudembi*〉
- (2) 打冷戰 (22b3) 〈*sesukiyembi*〉

なお、(1) の *cekudembi* は名詞 *ceku* (ブランコ) から派生した動詞である。

“見”

一般には結果補語として扱われるものだが、本節で取り上げる。

“見”が1例用いられており、動詞“聽”に後続する。

“見”に対応する満洲語はなく、動詞 *donjimbi* (聞く) の先行形がこれに対応する。

- (1) 我把聽見老家兒們 (23b3) 〈*donjifi*〉

6.2 重複形式

“AA”

“AA”型重複形式としては2例，“説説”と“等等”が用いられる。満洲語では，“説説”が動詞 *gisurembi*（言う，話す）の希望形に対応し，“等等”は副詞 *bajima*（しばらくして，少し遅く）に対応する。

- (1) 我把記得的説説 (21b6-22a1) 〈*gisureki*〉
- (2) 畧等等告訴 (6b3) 〈*bajima*〉

6.3 同動詞

“好象”

類似を表す“好象”が1例用いられ，“是的”と呼応している。満洲語では接続詞 *aimaka*（多分，恐らく）に対応する。

- (1) 好象告訴是的 (11b2) 〈*aimaka*〉

なお，“是的”には接続後置詞 *gese*（～のよう）に対応する。

6.4 助動詞

6.4.1 可能

“能”

“能”は11例用いられており，うち肯定の“能”が7例，否定の“不能”が4例である。

満洲語では，肯定の場合いずれも動詞の不定形 *-me* に後続する *mutembi*（できる，よくする）に対応する。否定の場合，*mutembi* の否定形 *muterakū* に対応するものが3例，動詞そのものの否定形に対応するものが1例ある。

- (1) 能 (17a4) 〈*mutembi*〉
- (2) 纔能説呢 (12a3) 〈*mutembi*〉
- (3) 皆能説麼 (23a6) 〈*mutembio*〉
- (4) 不能之上 (17a4) 〈*muterakū*〉
- (5) 倉猝間不能告訴 (8a6-8b1) 〈*muterakū*〉
- (6) 告訴的不能分別 (10b1) 〈*fuliburakū*〉

上の(1)と(4)は可能表現の紹介の中で単独で用いられている例であり，*mutembi* と *muterakū* が“能”“不能”と等価なものとして認識されていたことを示すであろう。

“能勾”

“能勾”は1例用いられている。

満洲語では、主に反語で用いられる代名詞 *giyanakū* (どれだけ～か) に対応する。

(1) 能勾告訴什麼 (11a3-4) 〈*giyanakū*〉

なお、*giyanakū* は名詞 *giyan* (道理, 理屈) に否定詞 *akū* が付属した形に由来するものである。

“可”

“可”は12例用いられており、うち肯定の“可”が8例、否定の“不可”が4例ある。

満洲語では、肯定の場合、動詞の条件形 *-ci* に後続する *ombi* (なる, できる) の諸変化形に対応するものが7例, “可怕”の形で形容詞 *nimecuke* (ひどい, 恐ろしい) に対応するものが1例。否定の場合, *ombi* の否定形 *ojorakū* に対応するものが3例, 後ろに未来形 *-ra/-re/-ro* を伴って禁止を表す副詞 *ume* (決して～するな) に対応するものが1例である。

- (1) 乃可之意 (20b2) 〈*ombi*〉
- (2) 真可告訴 (8a5) 〈*ombi*〉
- (3) 倘或説告訴過可怎麼樣 (10a5-6) 〈*ojoro*〉
- (4) 也可説給聽麼 (21b6) 〈*ojoroo*〉
- (5) 可怕 (14b6) 〈*nimecuke*〉
- (6) 不可 (15a6) 〈*ojorakū*〉
- (7) 不可提寫在行首 (21b4) 〈*ojorakū*〉
- (8) 不可隨第十個頭兒的韻重説之 (29a4) 〈*ume*〉

上の(1)と(6)は単独で用いられている例であり, *ombi* と *ojorakū* が“可”“不可”と等価なものと認識されていたことを示すであろう。

“得”

助動詞としての“得”は5例用いられている。

満洲語では、動詞 *bahambi* (できる, わかる) の先行形 *bahafi* に対応するものが2例, 条件形 *bahaci* に対応するものが1例あるほか, “怎得”の形で *ainambahambi* (どうしてできる) の先行形に対応するもの, “得知”の形で動詞 *endembi* (だます, あざむく) に疑問語尾がついたものに対応するものが各1例ある。

- (1) 如何得知道 (9a1) 〈*bahafi*〉
- (2) 得要告訴 (7a1) 〈*bahaci*〉

- (3) 怎得告訴 (7a5) 〈ainambahafi〉
- (4) 告訴即得知 (6b3) 〈endembio〉

“使得”

“使得”が2例，否定の“使不得”が2例用いられており，単独もしくは述語として用いられている。

満洲語ではいずれも ombi の諸変化形に対応する。

- (1) 使得 (17a3) 〈ojoro〉
- (2) 使不得 (17a3) 〈ojorakū〉
- (3) 使得麼之字 (16b3) 〈ombio〉
- (4) 任意告訴使不得 (8a5-6) 〈ojorakū〉

上の (1) (2) (3) はいずれも単独で用いられた例であり，(4) は動詞の条件形 -ci に後続する。ojoro, ojurakū 及び ombio が“使得”“使不得”及び“使得麼”と等価なものと認識されていたことを示すであろう。

6.4.2 義務・当然

“該當”

“該當”が1例，否定の“不該當”が1例用いられている。

満洲語では動詞の acambi (合う，会う) 及びその否定形 acarakū に対応する。

- (1) 該當 (17a3) 〈acambi〉
- (2) 不該當之上 (17a3-4) 〈acarakū〉

上はいずれも単独で用いられた例であり，acambi と acarakū が“該當”“不該當”と等価なものと認識されていたことを示すであろう。

“該”

“該”が1例，否定の“不該”が1例用いられている。

満洲語では動詞の条件形 -ci に後続する acambi とその否定形 acarakū に対応する。

- (1) 理該告訴 (8a4) 〈acambi〉
- (2) 不該糊告訴 (8a5) 〈acarakū〉

“應”

“應”は8例用いられている。

満洲語では，7例が動詞の条件形 -ci に後続する acambi とその変化形

に対応するほか、動詞そのものに対応する例も1例ある。

- (1) 應畧重説之 (24b1) 〈acambi〉
- (2) 應改韻説者 (13b5) 〈acarangge〉
- (3) 理應細細的分辨 (22b4) 〈acambi〉
- (4) 末了應用哈喝豁等字之處 (23a5-6) 〈baitalara〉

6.4.3 必要

“要”

“要”は2例用いられている。

満洲語では、動詞の希望形 *-ki* あるいはそれに動詞 *sembi* (～と思う) が後続したのに対応する。

- (1) 要後頭告訴 (7a1) 〈alaki〉
- (2) 得要告訴 (7a1) 〈araki sembi〉

6.4.4 意欲

“欲”

“欲”は3例用いられている。

満洲語では、動詞の希望形 *-ki* に動詞 *sembi* が後続したもの、あるいは動詞 *ombi* の希望形 *oki* に対応する。

- (1) 欲如説 (16b4) 〈ki sembi〉
- (2) 乃欲要之意 (18a6) 〈oki〉
- (3) 乃欲求之意 (20b4) 〈oki〉

上の(1)は単独で用いられた例であり、*-ki sembi* という形が“欲如説”と等価であるという認識を示したものと言える。

“愛”

助動詞としての“愛”は1例用いられている。

満洲語では形容詞 *amuran* (好む, 好きな) に対応する。

- (1) 只是愛告訴 (5b4) 〈amuran〉

“想敢”

“想敢”は2例用いられている。

満洲語では文末後置詞 *aise* (～だろう, ～はずだ) に対応する。

- (1) 想敢之字 (16b1) 〈aise〉
- (2) 起先想敢告訴了吧 (5b1) 〈aise〉

上の(1)は単独で用いられた例であり、aiseと“想敢”が等価であると認識されていたことを示すものであろう。

6.4.5 難易・適否

“易”

“易”は1例用いられている。

満洲語では形容詞ja(簡単な, 易しい)に属格/道具格語尾の-iを付したja i(簡単に, 容易に)が対応する。

(1) 果然清語能易言 (23a1) ⟨ja i⟩

(待続)